

第1回豊川市制施行80周年記念事業市民会議 会議録要旨

○日時 令和4年7月5日（火）14時00分～15時40分

○場所 豊川市役所 本31会議室（本庁舎3階）

○議事

- （1）豊川市制施行80周年記念事業について
- （2）豊川市制施行80周年記念事業の提案状況について
- （3）キャッチフレーズの募集について
- （4）その他

○出席者（敬称略）

（委員）

◇出席11名

長谷川 完一郎	豊川商工会議所	専務理事	◎会長
伴野 雅章	ひまわり農業協同組合	専務理事	○副会長
豊田 雅章	一宮商工会（市内商工会代表）	事務局長	
平賀 菜由美	豊川市観光協会	専務理事兼事務局長	
美馬 ゆきえ	豊川市老人クラブ連合会	会長	
石黒 環美	公益社団法人豊川文化協会	副会長	
近藤 年文	豊川市スポーツ協会	副会長	
神谷 典江	NPO法人穂の国まちづくりネットワーク	代表理事	
滝下 豊	一般社団法人豊川青年会議所	理事長	
杉浦 綾子	公募市民		
橋本 記久子	公募市民		

◇欠席 なし

（事務局）

市長、企画部長、次長、企画政策課長はじめ企画政策課員3名

1 市長あいさつ

2 会長の選出及び副会長の指名

- ・豊川商工会議所の長谷川委員を会長に選出
- ・長谷川会長がひまわり農業協同組合の伴野委員を副会長に指名

3 議事

（1）豊川市制施行80周年記念事業について

事務局から豊川市制施行80周年記念事業について資料に基づき説明

（会長）

事務局から80周年記念事業の全体の方針、今後のスケジュール等について説明がありました。これについて、委員の皆さんからご質問やご意見をお願いしたいと思います。

(A委員)

資料1、SDGsの達成に向けた事業のところに賛成です。SDGsの理念は「誰一人取り残さない」です。多様な市民を誰一人取り残さずに住み良いまちになれば良いと思いました。

(会長)

ありがとうございました。SDGsの理念に賛成し、これを生かしていくというご意見でした。

(B委員)

同じく資料1の実施形態についてです。市の主催事業と色々な企業団体の協賛事業を実施していきますということですが、あくまでもコンセプト、基本方針は「元気なとよかわ」に置いておくのですね。つまり、それぞれの協賛団体に対してもこのコンセプトをもとに、それぞれの内容を決めてほしいということで通していくわけですか。

(事務局)

そのような形で各団体の皆様にもご協力をお願いしています。

(B委員)

それぞれの企業団体が自分の思いだけで展開するのではなく、やはりコンセプトはしっかりもった中で展開するということによろしいですね。

(事務局)

前提として、豊川市は元気だという位置づけがあって、周年事業を市内の各種団体にご協力をお願いしております。色々な団体の皆さまのご提案に期待するとともに、コンセプトも意識しながらご検討をお願いいただければと思います。

(C委員)

資料1中段に記念事業が記念式典、市民参加事業、PR事業の3つに分類して実施とあります。記念式典と市民参加事業は分かりますが、PR事業というのは何を意味しているのでしょうか。

(事務局)

PR事業ですが、文字どおり周年事業というものをより多くの皆さまに知っていただくような広報活動に力を入れていきたいということです。10年前の70周年の例を申し上げますと、前回PR事業として3つの事業を位置づけています。1つ目は市勢要覧を作りました。2つ目がキャッチフレーズの制定で、ポスターの掲示をしました。3つ目は豊川市宣伝部長の「いなりん」のご当地ナンバープレート交付を展開しました。

今回に関しては80周年でこういった活動ができるかということを今後準備していきたいと思います。

(C委員)

ありがとうございます。ではPR事業というのは、この市民会議でも発言の機会があるのですか。

(事務局)

良いヒントがいただけるようであれば、是非ご意見いただきたいと思っています。

(C委員)

私が色々目にした市勢要覧ですが、自治体としては小さいのですが、明石市が2022年に出した市政ガイドが良いと思っています。とても見やすいですし、市民がこれを見ると元気になると思うような内容です。こうした工夫を真似してもらえるとありがたいと思います。

それから若い人たちは紙媒体よりもスマートフォンで簡単に検索できるほうがより良いと思っています。明石市はパッと見られる工夫がしてあります。明石市のホームページでご確認いただけますので、是非参考にさせていただければと思います。

(事務局)

貴重なご意見をありがとうございます。具体的な事例も上げていただきましたので、それをヒントに事業課の方と検討させていただきたいと思っています。

(会長)

より視覚に訴えかける、あるいはSNSを多用し、これからの時代にあったPRを、というご意見でした。

(A委員)

C委員の意見に付随して、市民PRという面で申し上げます。70周年記念事業の記録冊子6ページをご覧ください。真ん中の大きな写真の中で山脇前市長の後ろに女性が3人たって、表彰のアシスタントをしているところだと思います。是非このような場で子ども・若者が参加できるように提案いたします。このような場において着飾った女性は、男性を支える役割のように見えます。そうではなくて、子どもの活躍の場を用意して成功体験を沢山経験し育ててほしいです。子どもも若者も皆で参加できる式典、80周年になれば良いと思いました。

(事務局)

事務局としても今回の記念事業の展開にあたっては、やはり子ども、若者といった将

来を担う若者層にメッセージを伝えたいということを強く意識していますので、貴重な意見として参考にさせていただきます。ありがとうございます。

(会長)

ジェンダー、性による差別をしないということでもよろしくお願いします。

それでは、記念事業の全体の方向性については、特段の修正等がないと判断できますので、事務局で予定どおり今後の準備を進めてください。

(2) 豊川市制施行80周年記念事業の提案状況について

事務局から豊川市制施行80周年記念事業の提案状況について資料に基づき説明

(会長)

現在、市及び各団体からの事業提案の最中であることから、現時点での提示事業は市主催等事業の9事業となっています。

ここでは、前回の70周年記念事業の記録を参考にしながらご意見をいただいたり、委員の皆様の団体における検討状況をご紹介いただいたり、自由にご発言をお願いしたいと思います。せっかくの機会ですので、配席表の順に、お一人ずつご意見を伺っていききたいと思います。

(B委員)

農業協同組合ということで市民の方にもだいぶ定着してきましたが、豊川市は花の生産が非常に盛んで、特にバラの生産については日本一を誇る産地であります。是非ともやはり80周年という記念の事業でございますので、そんなところで市民の方に花というのをもっと触れていただけるような企画をしていきたいと思っております。

(D委員)

本宮まつりが候補としてありますが、今年も中止が決まっておりますので、この次こそはと思っています。ただその時に何ができるのか、これから考えていきたいと思っています。開催時期も3年空いておりますので、早められるのなら早めたいと思っています。できるだけ人が集まれるような形で実施したい。そのあたりに力を入れないといけないと思っています。集客力が落ちていきますので、そういったものをどこかでカバーしていきたいと考えています。

(E委員)

豊川市老人クラブ、市老連と言います。年間を通して非常に多くの催しを行っていますが、コロナでスポーツ行事は2年間まったく行われておりませんでした。今年になってからやはり密をさけ、色々工夫をする中で少しずつやって行こうではないかということで、2つほどスポーツ行事を催しました。

老人クラブの中で一番人気がある行事はグラウンドゴルフであり、多くの会員を集め

ている状況です。まだ決定事項ではありませんが、その中で老人クラブとして考えたのが、三世代交流という事業です。これは県の老人クラブとタイアップしているのですが、豊川市も非常に活発にやっています。三世代ですから子どもさん、親御さん、私どものような老人、そうした組み合わせの三世代でできる行事の第一候補がグラウンドゴルフです。あまりルールも厳しくなく、どなたが来ても道具さえあれば何とかなる。オール豊川でやるとなるとかなりの数になるのですが、これをどんな風 to 実施していこうか考えている段階です。

(F 委員)

私自身がソフトテニス協会の会長を務めさせてもらっています。その関係で硬式を含め今年度中に新しいテニスコートを12面完成させていただけるということで非常に嬉しく思っております。ソフトテニス協会自身もコロナ禍で開催できませんでしたが、昨年度70周年を迎えたということで、当協会も市制80周年に合わせて何か計画するべきだという話が出ております。

また上位の選手が全国で活躍するということも必要だと思いますが、勝利至上主義に陥らずに、豊川市でスポーツをする市民が多いという、そういう市になるような提案を、多くの競技団体からできるようにしたいと思います。

(G 委員)

豊川青年会議所は本年度、「まちとは人である」ということで、住み続けられるまちづくりをテーマで活動しています。JCは2015年ぐらいからSDGsを推進する団体として活動をしていて、今年もSDGsを知るイベントや、SDGsに絡めた持続可能な地域を作っていくという活動を展開しています。その中ではJC以外の団体とパートナーシップを組んで1つの事業を成していくということで、資料1にもあるような他団体との協働を進めていけたらと思っています。

来年、理事長が交代するので、その新しい理事長が考えるのは、SDGsの中でも多文化共生といった部分であり、また今年とは違ったテーマになるのではないかと考えています。

(H 委員)

私は色々なところに属しているわけではなく、一般市民という立場で考えます。先程のPR事業にかかわるのですが、80周年を誰がどこまで知っているのか。今ここから始まることなので、まだPRしていない状況ですよ。今の時点では、どんな風にPRして参加してもらえるのかすごい不安というか、私や子どもたちとどうやって80周年をPRしていくかということにまだ自信がない状況です。それなので、PR事業に関してもものすごく期待をします。どのようなことをやっていくかは、この場ですぐ思いつかないですが、「もっと元気なとよかわ」を目指して色々な人が参加し、もっと盛り上がるということを一番に考えていけたら良いと思います。

先程言われたように50周年、60周年、70周年に行ってきたことを挙げると、私たちもああそうだったと思えることが沢山ありました。80周年に向けて、あとから心に残るようなものは何か。色々な方、団体の方がやっていただける事業をどうやってPRし、どういった形でお年寄りから子どもたちが参加できるのかが一番大事だと思っている。

私も市民会議に参加した理由が、まだ豊川をあまり知らない、もっと豊川を知りたい、勉強したいという気持ちですので、これから楽しみにしたいと思っています。

(I 委員)

資料1にもある「もっと元気なとよかわ」、そして持続可能な10年、20年先を見据えた事業ということで、観光協会としてもそれに向けて、また市の観光計画も今年度からスタートしていますので、そういったものも併せて計画していきたいと思っています。

具体的には決まっていますが、今年度研究事業として観光音楽イベント、音楽フェスの調査を実施しています。また愛知県の観光交流事業に講演会のような事業があるのですが、そういったものを誘致できたら良いと思っています。愛知県の観光協会ともお話をさせていただいて、そういった事業の中に子どもたちの意見を拾えるようなものができたら良いと思っています。まずは9月の締め切りに提出できるような80周年記念事業をまとめながら、観光協会として検討していきたいと思っています。

(J 委員)

公益社団法人豊川文化協会は文化芸術の振興に関する事業を行い、個性豊かな魅力ある市民文化の創造と伝統文化の継承に寄与することを目的としています。事務所は豊川市桜ヶ丘ミュージアム内に設置され、正会員・賛助会員・友の会会員で構成されていますが、4月現在で正会員は88団体、会員は2,143名です。豊川市から文化協会へ補助金をいただいておりますので、市制80周年には文化協会として豊川市を盛り上げる行事を検討してまいりたいと思います。

そして自主事業として豊川市文化会館を会場にして質の高い鑑賞事業を市民に提供し、音楽文化、舞台芸術、伝統芸能の振興を図る講演事業4講演を開催します。その他自主事業として11月3日文化の日を中心として開催される「ふれあいみんなの芸術祭」や文化芸術の振興に関する知識、技術の習得を目的とした事業、これらを含めまして来年度の80周年記念の協賛事業として開催できることを文化協会事務局と相談してより良いものにしたいと思っています。

(C 委員)

私たちNPO法人はえがおフェスを11月最初の日曜日に行っておりまして、コロナ禍でも一度も中止せずやっています。やめることは簡単だったのですが、万全の体制で、なんとかできるようにということで続けてまいりました。

今回もSDGsに着目したような何かを80周年の記念としてのイベントにできたら良いと考えています。市からの委託事業で受けている370団体ぐらいの方が相談にきた時に「SDGs、あなたたちの団体は？」と問うても、「え？」という人がほとんどで、SDGsのことすら知らないという感じの方が多いのが現状だと思いました。今年度は、17項目どれに当てはまるかとその団体に問い合わせ、答えられる団体は冊子に入れようとしています。SDGsのことを皆に知ってもらう、持続可能というのは生き続けられる、住みやすく生きていけるというのをみんなが考える良い機会なので、是非とも私どももやっていきたいと思っています。

あと、先程資料1でご説明いただいた留意事項の3についてです。記念事業をとりまとめた実施計画に掲載する各事業にはSDGsの全17事業の各ゴールを表示する旨の記載がありますが、記念事業提案依頼にはその記載がなかったと思います。私は色々な団体に属していますが、その会議では、80周年記念事業の議論というよりは冠をつけるかどうかという点を議論しています。記念事業としてどんなものをするかという気持ちよりも、今まである事業に冠つけるというレベルだと感じています。その辺のご案内はまだ間に合うと思いますので、この留意事項のお知らせはした方が良いでしょう。

最後に団体ではなく、私個人の意見を述べます。70周年の記念冊子を見ていただくと、山脇前市長が「当記念事業が70万人の参加数としていたが、最終的には延べ100万人を超える方に参加いただきました」とあります。今回80周年も同じように参加人数の目標を立てるのであれば、時代がかわりコロナ禍になってしまったので、参加人数を工夫して会場に直接来られなくても参加できるというようにできれば良いと思います。来年になりコロナが下火になっていれば良いですが、厚生労働省の発表では2025年頃収束、というニュースがあったかと思います。来年絶対安泰だとは思えないので、その辺の計画もしていただけたらと思います。

(A委員)

先程H委員より子どもがこの80周年の時に何をしたか思い出せると良いという意見がありました。えがおフェスでもあんなことやった、こんなことやった、こうやって参加したというのを記憶に残すために、この80という、これをご覧いただきたいのですが(紙面に書いた80の数字)、これを大きくして写真をとって、例えばえがおフェスの最後にそれを市に提出する。こんなことを私たちはやったのだということが記録にも残るし、こうやって人と人が交流して元気になったというのが記憶にも残れば良いと思いました。

やはり人と人が交流してこそ人が元気になって、豊川市が元気になると思います。私はステイホームで委縮しメンタルがやられてしまいました。元気をなくした方も少なからずいると思います。是非元気になるきっかけ、応援しあう豊川市になれば良いと思いました。

(会長)

ありがとうございました。皆さまにお伺いしながら商工会議所の話をするのをすっかり忘れていました。

商工会議所、実はさまざまな講演会、おいでん祭の事務局を持っております。そうしたところを80周年と一緒に冠をつけて盛大にPRしていきたいと思います。なかなかコロナの見通しが不明確なところがありまして、今後見通すことが難しいところです。ウィズコロナ、コロナの対応を考えながらも経済を回しイベントをやっていくのは非常に重要ですので、会議所としてもできる限りそれをやっていく方向で進めていきたいと思います。今、皆様が言っていただいた参加する人を増やすというのはまさにPRが大事だと思います。市は広報とよかわ、ひまわり農協さんはWai! Wai! Himawari、商工会議所はメセナという全世帯へ配布する広報誌をもっておりますので、そういうものを使う。さらに今はSNSも使ってPRするというのが一番効果的です。こうしたものを利用しながら今後事業をPRしていきたいと思います。今、それぞれの団体の皆さんから様々な計画事業等を出していただきました。元気なとよかわ、それから豊川をもっと知ってもらうためにはどうすれば良いのかというのはこれからの課題であります。9月末までであるということですので、様々な事業をご提案いただいてやっていきたいと思っております。また皆さんからご意見をお寄せいただくようお願いいたします。

それでは、委員の皆様から出された意見については、事務局で今後の事業取りまとめの際に生かしていただき、次回の第2回で事業提示をお願いしたいと思います。

(3) キャッチフレーズの募集について

事務局からキャッチフレーズの募集について資料に基づき説明

(会長)

ありがとうございました。これにつきまして委員の皆さまからご意見を伺いたいと思います。

(A委員)

賞金3万円について、お金もありますが、いなりんのぬいぐるみとか、温かいものがあれば良いと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。今のところ予算としてはお金を予定しているのですが、いただいたご意見として検討させていただきます。

(G委員)

募集が手書きで郵送ということですが、何枚ぐらい募集される予定ですか。目標はありますか。

(事務局)

特に目標というものは設定していません。参考として70周年の時も同じように募集をしています。当時は1,400件の応募がありました。PR次第ですが、今回も同程度かそれ以上の応募をいただけるように進めていきたいと思っています。

(G委員)

手書きだとそのあたりの件数が精査の限度だと思います。1万件の応募があった時に集計が大変なので、違った手法が必要かと気になったので質問させていただきました。

(事務局)

ご配慮ありがとうございます。資料の中で触れなかったのですが、最後のページに応募用紙を添えています。応募方法は複数用意して、あいち電子申請・届出システムを利用したインターネットからも応募していただけます。仰るとおり紙の応募ですと事務作業が大変なので、できる限りネットで応募いただければと思いますが、逆にネットが使えない方もみえますので、両方の方法でご提案いただくような方式をとっています。

(I委員)

こちらにキャッチフレーズと書いてありますが、ロゴを企画する予定はありますか。こちらについては言葉だけという意味だとは思っているのですが、ロゴについての取り扱いを質問します。

(事務局)

ロゴについては現段階で明確に募集するとか作りますとは申し上げていないのですが、70周年の記録冊子表紙の「とよかわ 人の輪 地域の和」これが前回のキャッチフレーズです。当時いなりんとこのキャッチフレーズが一体になったものをロゴという形で啓発に活用したケースがあります。キャッチフレーズを募集する中でこういった作品がというのはありますが、キャッチフレーズの内容にマッチするようなロゴができれば良いという案は抱いています。できるだけ視覚的に皆さんの記憶に残るような80周年の記念ロゴが活用できたらと思っています。

(E委員)

募集について、広報を含めて様々考えておられると思いますが、どう募集するか、どこで募集するのでしょうか。

(事務局)

「広報とよかわ」の8月号でご案内する予定です。募集そのものは、明日7月6日から開始しますので、まずは市ホームページでお知らせします。市役所、各支所で募集の

ボックスを準備する予定でいます。今日はボックスの実物を持ってきました。あとは会長からお話がありましたが、商工会議所のメセナで掲載のご協力をいただいています。

(E 委員)

周年事業というのはできるだけ多くの市民を巻き込みたいと思います。70周年の時は現役の市議会議員だったのですが、あまり記憶にないです。ということは一般の市民の皆さん、本当に周年記念事業ということは分かっていたのか。あまり皆さんに周知徹底されていなかったのではないかと思います。これをどうやって多くの人に知っていただき、どう巻き込めるかはすごく大事なことだと思います。一部の団体、一部の個人、一部の企業だけでちんまりとやっていたはいけないと思うのです。できるだけ多くの市民を巻き込んでやるように工夫を凝らしていただきたいと思います。

(事務局)

貴重なご意見をありがとうございます。10年前のキャッチフレーズ募集にまつわるお話をさせていただきますが、先程キャッチフレーズの選定方法の中に市民投票を2週間程度で行いたいとご提案させていただきました。実はこれは10年前の市民会議でご提案いただいた手法です。当時事務局がお示した手法は市民会議の場で3つの優秀作品を決定する、かつ1位を決めるという手筈をご提案申し上げたのですが、せっかくなのでキャッチフレーズの市民投票をすれば70周年がくるのだということをより多くの方に知っていただけるチャンスではないかという提案をいただいて、早速市民投票を実施しました。今回もその時いただいたご提案を踏まえて同じようにキャッチフレーズの市民投票をしたいと思っています。

ちなみに前回市民投票で約5,100件の投票がありました。やはり今回はE委員も仰ったように啓発の取組に力をいれて、一段目としては市民投票がどれだけ多くの方に投票いただけるのかというのが大事な数値目標、バロメーターになってくると思います。先程会長が仰ったようにSNSを活用するなどして、この時代にあった啓発手段をしっかり活用し周知を図っていききたいと思います。

(E 委員)

明日からホームページ掲載ということでした。8月号の広報ということで、メセナも読んでる人は読んでいますね。ですが、そのホームページを開かない年代の人たちが相当数います。老人クラブの会員が6千数百名いますが、そのうちの相当数はホームページって何？という話だと思います。それから広報ですが、二世帯という家が結構ありまして、その広報を家族全員が回し読みしない状況にあると思います。若い人たちは読んでいるけれども、お年寄りには重要なことを全く読んでいない、だから情報がないという。よく読んでいれば分かるのですが、情報がないということは広報も見えていないということではないかと思います。ましてやそういった方がメセナを見ることはないと思うのですね。なのでキャッチフレーズについても、できるだけ各団体の皆さんにお知らせする。

私も老人クラブへの周知はしていきますが、色々な団体の方にもお知らせをしていただけるとありがたいと思います。これが第一歩です。キャッチフレーズ、一番大きいです。5千数百よりもっと集まるかもしれません。楽しい事業だと思いますので、少しでも多くの団体に呼び掛けてもらえたらと思います。

(事務局)

貴重なご意見、ありがとうございます。事務局の方で検討させていただきたいと思います。

(C委員)

キャッチフレーズですが、市民だけに応募の機会があるのか、他のまちでもよその人がキャッチフレーズをつけている自治体はあります。シティセールスにもなりますので、少し工夫をされたらと思います。それからE委員が仰ったことはごもっともだと思います。最初の楽しい事業だと思います。豊川市はまだ実証実験の最中ですので、全部の町内会が分かりませんが、「結ネット」というアプリがあります。市民協働国際課が頑張っているのですが、「結ネット」を繋いでいくと、市の情報などはこの電子回覧板で見られます。見なければ、「結ネット」のところに赤い印が表示され、見ていないのが分かります。歳が上になっていくとなかなかスマホも活用できないので、紙媒体と両方で作戦を練っていかなければならないですが、80周年を知っていてほしい若者たちはスマホを上手に使います。「結ネット」をせっかくやっているのなら、それで広めること。やっている町内会がどのくらいあるか存じ上げませんが、いくつかの町内会でやっていると思います。少し地域コミュニティのこと、市制のことに興味をもってもらうためにも是非「結ネット」を活用していただけたらと思います。とりあえず多くの人が知ることが最初の一步で、私たちは楽しく集められる方法に工夫を凝らしていただきたいと思います。

(事務局)

話題にあげていただいた「結ネット」、各町内では電子回覧の実証実験の取組ですが、今、市内で20の町内会で取組をしていただいていますので、そちらのツールを活用した周知も事務局で調整させてもらいたいと思います。それからE委員が仰った各団体への依頼、これも考えたいと思うのですが、逆に各団体様の方で機関誌ですとか、紙面をご提供いただけるのであれば、そういったところにも掲載をお願いしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(E委員)

先程C委員が仰っていた件、私もそう思います。現在豊川市民でなくても豊川市から外へ出ておられる方もいらっしゃると思います。是非そういう意味でも多くの皆さんに知らしめるPR作戦をお願いしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。今回のキャッチフレーズの応募資格は、在勤在学の方までの幅ですが、それを市外の方にも広めたらどうかというご提案だと思います。実は広報の原稿はこの中身で進めさせていただいております。校正が最終段階になっており変更できないため、申し訳ございません。

参考に70周年について申し上げますと、前は豊川在住のみだったのですが、それを豊川に関係のある皆さまへということで在勤在学まで枠を広げました。その思いとしては、豊川の80周年にマッチしたキャッチフレーズを豊川と関係をもってみえる皆さまにご提案いただきたいということで在勤在学までとさせていただいています。キャッチフレーズの募集をシティセールスとして市外の方へ広げられるということを我々の選択肢としてご提案いただけたので、次回90周年に繋げるようにしていきますので、よろしくお願いいたします。

(B委員)

キャッチフレーズはとても大事だということで今、色々ご意見ありましたが、その中でキャッチフレーズというのは1つを使うのですね。優秀賞2点ということですが、その扱いはどうされますか。

それともう1つ、最優秀賞、優秀賞が1点、2点ものなら良いのですが、複数点あった時に例えば最優秀賞1点は抽選で選ぶのですが、落ちた数点は対象外となる。次に優秀賞を選ぶのですが、そういう自分の出した案が落ちて次の人が賞金をもらっているという不公平感は生じないのでしょうか。という2点をお伺いします。

(事務局)

投票数が一番多かった作品を1つキャッチフレーズとして使っていく考えです。70周年の例で申し上げますと、他の2つの作品はキャッチフレーズとして使用しませんでした。他に使える場面をすぐに思いつきませんが、優秀賞2点は賞金を授与して終わりです。B委員の言うことはすごく心に響く部分があるのですが、現段階ではそういう対応で考えております。

(E委員)

まったく同じ作品がキャッチフレーズとして応募された場合の取り扱いはどうしますか。一宮町にある「いかまい館」の名前を募集した際にもそういうことがあった。その時は抽選で、一人の人が選ばれ、他の人は現金ではなく副賞を出しました。

(会長)

今回はキャッチフレーズですので、同じものが大量にくるということは考えにくいかなと思います。ただ同じようなキャッチフレーズの応募があった場合は、発表の際に個別に連絡する等、何らかの対応をするということかなと思います。それはまた事務局にお

任せしたいと思います。

(C委員)

このキャッチフレーズの参加賞は考えていますか。豊橋市の話ですが、数日前、参議院選挙へ行った証明があれば、ある商業施設でユーラク製菓のブラックサンダーをもらえる。そんな時代になったのだと感じました。豊川市では参加賞は考えてないですね。

(事務局)

考えておりません。何よりも郵送すると郵送料もかかりますので、予算がありません。

(C委員)

参加賞は投票者が豊川市まで取りにくるのです。苦しみぬいて集めるものではないので、そのくらい楽しくキャッチフレーズは集めるものだというのが言いたかったんです。投票に参加した方への賞はないということで分かりました。

(事務局)

お金は用意できませんが、思いとしては我々も楽しく携わってまいりたいと思いますので、ご声援をいただけたと思い受け止めたいと思います。

(会長)

様々な意見をありがとうございました。応募資格については決まっているということです。ただ多くの人に知っていただくということで、紙媒体、SNS、マスコミ、団体を通じてなど色々なPR方法がありますので、是非ともPRしていただいて多くの方に応募していただくように、よろしくお願いいたします。

それではこのキャッチフレーズの募集については特段修正がないと判断しましたので、この案のとおりということで事務局で手続きを進めていただきたいと思います。

(4) その他について

事務局からその他(次回会議予定・キャッチフレーズの審査・事務連絡等)について資料に基づき説明

(事務局)

追加でお話させていただきます。議事の(2)で全ての委員の皆さまから順番にご意見をいただきまして事務局からそのリアクションができなかったのでここでさせていただきます。

色々各団体の皆さまがご検討いただいているということにまずお礼申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。子どもたちにスポットをあてた参加型が良いというご提案や、SDGsに関するご意見も多くいただきました。80周年を子どもたちの記憶に残すものにする取組ということで80の写真撮影だとか、そういったご意見を踏ま

えて実際にどういった対応ができるか、どういった動きができるかということについても検討させていただきたいと思います。遅ればせながら事務局としてのお答えとさせていただきます。またご意見がありましたら事務局の方へお願いいたします

(会長)

以上で本日の市民会議を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。